

# 連続捕獲装置を用いたアメリカザリガニの低密度化の検討 ～都立光が丘公園での事例

認定 NPO 法人 生態工房 佐藤 方博

## 1. アメリカザリガニ防除の経過

都立光が丘公園（練馬区、板橋区）は 60.7ha の敷地にスポーツ施設、芝生広場、樹林などを備えた総合公園である。一角には自然の保護と学習を目的とした 2.4ha のバードサンクチュアリが開設されている。ここには樹林や草地に囲まれた淡水池（0.7ha）がある。1985 年に整備された人工池で、河川との接続はなく、水源は雨水である。

淡水池では、2002 年からアメリカザリガニを含む外来種防除が行われている。これまでにミシシッピアカミミガメ等の外来カメを根絶。ブルーギルは 2017 年のかいぼりで、ウシガエルは 2018 年のワナ掛けと卵塊回収によって根絶した可能性があり、経過観察中である。防除対象種は残すところ、アメリカザリガニのみとなっている。

アメリカザリガニ防除には、主に遮光型カゴ網とアナゴカゴを用いている。これまで、防除圧を高めるためにワナ数を段階的に増やしてきた。ワナを増量した分だけ採取数が増加する状態が続いていたが、2017 年に初めて採取数が減少した。体サイズの小型化も認められ、防除効果が表れてきたようである。

## 2. 目的と方法

当地の生物多様性を回復することを目的として、従来からのワナ掛けによる防除を継続した。併せて、近年開発された新ワナ「連続捕獲装置」の使用方法や特性を把握する目的で同装置による採取を行った。これらのワナ種ごとの採取結果を整理、比較し、考察した。採取されたアメリカザリガニはワナごとに尾数を記録した。

実施期間 5 月～11 月（予定）

遮光型カゴ網、アナゴカゴ 遮光シートを付けて水中に常設（誘引餌なし）。

計 120 個を使用。回収は週 2 回

連続捕獲装置 4 個を使用（段階的に増設）。回収は月 2 回

## 3. 結果及び考察

5 月から 8 月までの防除によってアメリカザリガニ 10,584 尾が採取された。このうち、手捕りなどによるものを除いた採取数は、遮光型カゴ網 6,295 尾、

アナゴカゴ 3,603 尾、連続捕獲装置 385 尾であった。3 種のワナごとに単位努力量当たり採捕数 (CPUE) を比較した (表 1)。連続捕獲装置は作業 1 回当たりの効率がよかった。3 種のワナのうち CPUE がもっとも小さかったアナゴカゴを 1 とした場合の CPUE は、遮光型カゴ網が 2.12 倍、連続捕獲装置が 9.14 倍であった (表 2)。こうした結果から連続捕獲装置は、少ない個数と作業日数で多くのアメリカザリガニを採取できるワナであると考えられる。表 1, 2 には、参考として他の 2 池の数値も記載した。

表 1 ワナ種ごとの CPUE の比較

	弁天池	三宝寺池	光が丘
遮光型カゴ網	0.76	1.19	4.06
アナゴカゴ	0.29	2.03	1.91
連続捕獲装置	4.13	10.20	17.50

表 2 アナゴカゴを 1 とした場合の CPUE の比較

	弁天池	三宝寺池	光が丘
遮光型カゴ網	2.63	0.59	2.12
アナゴカゴ	1.00	1.00	1.00
連続捕獲装置	14.20	5.03	9.14

一方、連続捕獲装置は歴史が新しいワナであり、使用に際しての知見の蓄積が十分ではない。今回、作業期間中に装置が停止している日数があった (日数は不明)。停止した要因は、湿気による給餌器の故障、カビの発生によるエサ詰まりであった。このため、獲物の回収頻度は月 2 回であったが、開始から何日目かに装置が停止してしまい、実際の稼働日数が少なかったようである。停止していた割には採取数が多かったとも言えるが、給餌器の故障や餌の損失と、装置を稼働状態に復旧させるまでの空白期間を考えると、効率がよいとばかりは言えない。

ともあれ、この装置が採取効率がよいことは確かである。適切に使いこなしていくために工夫や情報交換を重ねていくことが大切であると思われる。